コース一覧表（下半期分）

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数限上	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
C1	社会保障と高齢者福祉	6	下	10月1日	12月13日	【１】研修員が帰国後、当該地域、職場において実践可能かつ将来の社会福祉制度に確実に寄与貢献できる実務上の知識と技術を習得すると同時に実際の現場でこれらを普及するための実践方法を習得する。 【２】最新の日本社会における介護の知識と技術を習得することができると同時に、これらを普及するための実践方法を学ぶことが出来る。 【３】＜講義＞ 介護保険制度等の流れ、自立支援介護、自立支援介護」を学ぶための日本語等 ＜演習＞ 自立支援介護技術（自立支援介護の理論と方法による食事、入浴、排せつ等）、学校で実施する地域の高齢者に対する自立支援介護のサービス提供現場での実践、介護現場での日本語等	日本の最新介護に興味関心を有する者 学歴： 高卒以上 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：宿泊は本学園の留学生用宿舎を予定。 日本語能力はあると望ましい。	提案団体：北斗文化学園 担当者名：学校長 澤田　乃基 E-mail：g.h.q@hokuto-bunka.gc.jp Site: https://hokuto-bunka.ac.jp/
C3	日本の地域特産品を活用した6次産業化とアグリツーリズム	8	下	10月1日	11月3日	【１】研修員が、日本の地域特産品を活用した6次産業化・高付加価値化、アグリツーリズムにかかる知見を習得し、自国で活用するための実践計画を作成する。 【２】1. 地域における大規模農業および中小規模農業の両面の事例から、日本の6次産業化・高付加価値化と1次産品に依存しない農業経営、アグリツーリズムの全体像が理解される。 2.　日本の6次産業化、アグリツーリズムの手法が習得される。 3. 日本最大の食糧供給基地である北海道十勝地域における6次産業化・高付加価値化、アグリツーリズムを参考に、自国で応用可能なアイデアを考案できる。 4.　日本の農業協同組合や農業に関連する法律など農業の基本的な仕組みを理解できる。 5.　研修員が、帰国後の具体的な実践計画を作成する。 【３】1. 講義：6次産業化と1次産品に依存しない付加価値化・農業経営、アグリツーリズムの概要、独自の開拓の歴史を持つ北海道・十勝の農業、農業経営等および、農業協同組合や農業関連施策や法律など 2.　視察：6次産業化、アグリツーリズムを実践している農家、法人 3.　実習：事業計画の実践、加工及びサービス・販売、北海道の伝統的な祭りを始めとする日本文化の体験 4.　発表：内部及び関係先	農業経営者、農業協同組合職員、農業系行政職員、日系団体所属者、日系団体でツーリズムに関わる担当者 学歴： 高校卒業程度 経験年数：実務経験3年以上 年齢：不問 日本語能力：不問 （挨拶程度の日本語ができることが望ましい） 英語・多言語：集団研修として通訳を配置予定 （スペイン語orポルトガル語） 備考：本研修実施の意義／現地日系社会への裨益効果: 本コースは、講義・視察・ワークショップ・ディスカッションを通じて、地域における先進的な6次産業化・高付加価値化の手法と効果、安定的かつ収益性の高い農業経営等について学ぶことを目的とする。6次産業化は、農業生産のみを行う1次産業だけではなく、加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）を一貫して行うことで経営の多角化を図り、農業の可能性を広げようとするものである。また、そこから踏み込んで観光分野まで展開し、グリーンツーリズム・アグリツーリズムの実践など、農業のバリューチェーンを計画、構築、管理する能力の育成を目指す。 北海道中小企業家同友会とかち支部と連携し、日本最大の食糧供給基地である北海道・十勝において農業の振興を担う多数の関連団体（行政機関、農協、農業経営者など）と活発な意見交換を行いながら、自国で適用可能な取り組みのヒントを得て、農業経営の発展を通じて日系社会に寄与する人材、自国の地域経済を牽引できる人材を育成する。 また、農業協同組合や農業関連施策、法律などについても基礎的部分を学ぶことで、より基礎から応用に至るまで一貫した日本型農業のあり方に知見のある人材育成に寄与する。	提案団体：一般社団法人　とかち地域活性化支援機構 担当者名：岩本　聖史 E-mail：kaigai@tokachi.biz Site: https://tokachi.biz/
C4	音楽リハビリ・プログラム	6	下	11月5日	12月1日	【１】・音楽リハビリ・プログラムの理論と実技を習得する ・帰国後に現地でリハビリの実施やスタッフ等の指導・訓練ができる人材を育成する ・日本国と日系社会との関係強化のための交流を促進する 【２】・高齢者の介護予防に必要な６つ観点「運動器機能向上」「口腔機能向上」「栄養改善」「認知症予防」「閉じこもり予防」「うつ病予防」を理解する ・６つの観点をどのようにプログラムとして展開していくのかを理解し、実際に展開できる ・リラクゼーションヨガ、リズム運動、音楽セッションの3つのプログラムの運営管理手法を習得する ・音楽を活用した運動、音楽演奏手法、脳の活性化訓練手法を習得する 【３】１．　講義：研修会場で講師による講義の実施 ２．　実習・OJT：音楽リハビリ・プログラムの実演 ３．　見学：ゆらリズム（通所介護施設）・他高齢者施設の見学 ４．　演習：ゆらリズム等で利用者様向けのプログラム実施 ５．発表：研修内容についてのレポート作成、発表	高齢者福祉を中心とした保健医療福祉業務に従事している者（看護師や介護士の資格あれば尚可） 学歴： 不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：挨拶程度の日本語ができること 英語・多言語：通訳配置可能性有 教材：ポルトガル語orスペイン語 備考：	提案団体：株式会社 ゆらリズム 担当者名：菊地　義仁 E-mail：kikuchi.yura@gmail.com Site: http://yura-rhythm.com/
C5	医療機材管理・保守	8	下	10月1日	10月31日	【１】医療機材を理解し、日常点検の方法や簡易な修理技術を習得することにより、機材が長期間活用されるようになる 【２】日本と途上国の相違点、途上国の医療現場で起こり得る問題点を学び、人工呼吸器を始めとする医療機材の日常点検の方法を習得する 【３】1.講義：医療機器学概論、安全管理工学、計画的予防メンテナンス 2.実習：医療機材の日常点検、簡易な修理方法、（生体情報モニター、人工呼吸器） 3.見学：郡山市内総合病院、酸素工場、医療機材メーカー工場、サービスセンター等（ICU関連機材、手術室関連機材） 4.討議・演習：ふりかえり、研修成果発表	医療現場において医療機材の管理・保守に従事する者 学歴： 大卒（相当） 経験年数：3 年齢：不問 日本語能力：不問（あれば望ましい） 英語・多言語：通訳配置：有 教材：日本語、英語 備考：	提案団体：エア・ウォーター東日本株式会社 担当者名：水谷　恭二 E-mail：mizutani-kyo@awi.co.jp Site: https://www.awi.co.jp/east-japan/

コース一覧表（下半期分）

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数限度	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
C6	地域保健医療福祉－病院から地域へ多職種によるチーム医療福祉	8	下	11月5日	12月8日	【１】研修員が、病院から地域への切れ目のないケアサービスおよび多職種の協働によるチーム医療と地域包括ケアシステムの実際を学び、自国の高齢者ケアの改善に資する人材となる。 【２】1.日本の高齢者医療、在宅ケアの歴史的背景、介護の人材育成、認知症ケア等の基本的な講義を受け、 現在に至る地域医療の現状を理解し、自国の高齢者対策へのヒントを得る。 2.日本の都心部と農村部で展開されている救急病院―リハビリテーション病院および中間施設である老人保健施設を へて訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション・訪問介護へと継続されている流れと実際を理解する。 3.地域包括ケアにおける自治体(佐久市)と保健医療福祉機関との協力体制を理解する。 4.地域住民の健康意識を高める継続的な取り組みについて理解する。 5.高齢者施設の運営、管理について理解する。 6.高齢者用住宅の利便性について理解する。 7.高齢者の持てる力や機能を生かせるケアについて理解し、応用できることを計画する。 8.介護予防の知識・技術、実践方法について理解する。 9.高齢者施設での看取り、自宅での看取りの実際について学び、高齢者の看取りの在り方について考察する。 10.認知症ケアに有効な地域づくりについて理解する。 【３】研修計画（内容）：　日程案により、講義、演習、視察により目的を達成する。 1週間：JICA横浜―総論的な研修(日本の保健行政、高齢化を取り巻く社会・経済、日本語学習等) 3日間：東京研修－大都市における高齢者ケア（病院、ケア施設等）、日本看護協会、ジョブレポートの発表等 3週間：佐久市を中心とする研修(佐久大学、JA佐久総合病院、浅間総合病院、佐久市の各ケア施設)、佐久市の認知症サポータープログラムの取り組み、介護の基本技術上田市（JAローマンうえだケア施設・特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護ケアホーム、認知症ケアホーム、有料老人ホーム）、鹿教湯リハビリテーションセンター（病院）専門職によるシャドウラーニング 2日間：JICA横浜―アクションプランの発表、評価会、閉講式	1.医療(医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等) 2.保健(高齢者のデイケアや健康増進プログラムのマネージャー等で職種は問わない) 3.福祉(ソーシャルワーカー、高齢者施設のマネージャー等で職種は問わない) 4.また、日系関連団体の施設等を利用して、高齢者が集まるサロンやデイサービス等を 企画、運営する意欲のある人（資格は問わない） 5.老年学を学ぶ大学院生 学歴： 保健医療・福祉関連の教育を受けていることが望ましいが、必須ではない。 経験年数：2年以上現職にいることが望ましい。 年齢：不問 日本語能力：N3～N4 英語・多言語：日本語能力が低い場合は、英語で日常会話ができることが望ましい。 備考：	提案団体：学校法人佐久学園 担当者名：東田　吉子 E-mail：y-tsukada@saku.ac.jp Site: https://www.saku.ac.jp
C7	太鼓の技術認定及び指導者育成	6	下	1月8日	3月26日	【１】①研修員が、長野県岡谷市において研鑽を重ねながら、講習会開催時には開催地に赴き、技術認定員資格の取得または指導員としての認定を目指す。 ②全国各地の太鼓団体において多様な打法に触れ、また指導法を学ぶ。 ③太鼓の製造過程を見学すると共に可能な限り、製造･修理技術を習得する。 ④ジュニアコンクールの運営に関わることによって、太鼓の事業運営のノウハウを学び、自国での太鼓事業開催に活かす。 【２】①研修員が日本太鼓について並びに日本太鼓資格認定制度の全体像の理解を深める。 ②研修員の太鼓技術を向上させ、太鼓指導者としての資格取得の可能性が増大する。 ③研修員が太鼓の製造過程を体験することができる。 ④研修員が帰国後に太鼓技術を学び、将来的に指導員として南米で太鼓指導が可能となる。 ⑤研修員が帰国後に太鼓製造に関してもアドバイスが可能となる。 ⑥研修員が日本の太鼓事業に参加し、実践経験を積むことで自国における活動に活かされる。 【３】①太鼓の技術研修：全国各地の日本を代表する太鼓チームにおいて、技術を習得する。 ②日本太鼓全国講習会及び支部講習会等で1級技術認定資格を取得し、1級技術認定員の資格を有するものは、講習内検定として参加し、公認指導員の資格取得を目指す。 ③障害者に対する太鼓の指導法を学ぶ。 ④日本の太鼓製造工場において、製造過程を見学しながら可能な限り体験実習することにより太鼓の製造方法・修理方法を学ぶ。 ⑤太鼓公演を見学し及びスタッフとして参加することにより、事業運営を研修する。	日系社会において太鼓を指導又は演奏しており、日本太鼓資格認定制度に基づく公認指導員又は3級技術認定員以上の資格を有する。 学歴：　不問 経験年数：3 年齢：21歳以上（2023年4月時点） 日本語能力：N3以上 英語・多言語：不問 備考：宿舎は、長野県岡谷市の宿泊施設を拠点とし、必要に応じて各研修地に近いホテル等を使用する。 講習会の参加費、受講料、検定料(技術認定のみ)、講習内検定料（公認指導員を目指す者のみ）、認定料等、資格取得に必要な費用は研修員の負担とする。 参加費：毎回4,000円程度(講習会によって多少の増減あり) 技術認定員取得を目指す場合：講習会1回につき受講料9,000円、検定料(試験)1回につき2,000円 公認指導員取得を目指す場合：講習会1回につき講習内検定料5,000円、技術認定員認定料：2級技術認定員(10,000円)、1級技術認定員(20,000円)、 公認指導員認定料：3級公認指導員(30,000円)、2級公認指導員(50,000円)、1級公認指導員(100,000円)	提案団体：公益財団法人日本太鼓財団 担当者名：小山 E-mail：koyama@nippon-taiko.or.jp Site: http://www.osuwadaiko.com/home/
C10	食を通じた日系団体婦人部活性化	6	下	1月8日	2月9日	【１】研修員が、食を通じた地域活性化のための婦人部活動に関する知識を習得する。 【２】1.研修員に、日本食を中心とした調理技術が習得される。 2.研修員に、食を通じた特産品の開発、地域おこし等の地域活性化に関する知識が習得される。 3.研修員に、所属団体が抱える課題解決手法が習得される。 【３】1.講　義；日系社会と婦人部活動、日本の非営利活動等 2.視　察；先進農協、地域団体他 3.実　習；調理実習等	日系団体婦人部の部員 学歴：　不問 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：公益財団法人海外日系人協会 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site: https://www.jadesas.or.jp/
C11	持続可能な日系団体運営管理	6	下	10月1日	11月2日	【１】研修員が、持続可能な団体運営の方法に関する知識を習得し、ソーシャルビジネス的手法を用いた日系団体による地域活性化のための新規事業計画を作成する。 【２】1.研修員に、非営利団体の運営管理手法に関する知識が習得される。 2.研修員に、日本人移住の歴史及び日系社会支援の変遷に関する知識、並びに知識普及のための技術が習得される。 3.研修員に、現代日本事情及び日本伝統文化に関する知識が習得される。 4.研修員が、日系団体及び地域活性化のための新規事業計画を作成する。 【３】1. 講義：日系関連事業、日系団体に関する講義／非営利活動、ソーシャルビジネスに関する講義／ビジョン・ミッション論／モチベーション管理／リーダーシップ論 2. 演習：社会的課題発見手法／問題解決手法／新規事業作成手法 3. 見学：ソーシャルビジネス現場視察／在日日系コミュニティ支援／海外移住関連施設 4. 演習：日本文化行事企画／ファシリテーション手法	日系団体等（日系農協および日系団体下部組織を含む）非営利団体に所属し、帰国後、習得した技術を日系社会や地域社会のために役立てられる者 学歴：　不問 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：公益財団法人海外日系人協会 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site: https://www.jadesas.or.jp/

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数限上	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
C12	着物を通じた日系社会活性化	6	下	11月5日	12月22日	【１】研修員が、着物に関する一般的知識並びに活用・普及および管理・保存に関する知識、技術を習得する。 【２】1.研修員に、着物に関する一般的知識（歴史、役割、素材等）が習得される。 2.研修員に、着物の活用・普及に関する知識・技術が習得される。 3.研修員に、着物の管理・保存に関する知識・技術が習得される。 【３】1.　着物に関する一般的知識（歴史、役割り、素材等）の習得 【講義】着物の歴史/思想と製法・種類/帯・小物の役割/着物の地方性・素材・季節など 【演習】着物の構造/染色体験など 【視察】染色工場/和装履物店/和装小物美術館/織物・染物会館など 2.　着物の活用・普及に関する知識・技術の習得 【講義】日本文化の基礎知識/着物と日本文化のコラボ/着物文化をビジネスに育てる/着物関連イベントの企画・運営など 【演習】着付け/着物のマナー/風呂敷活用法など 【視察】西陣織会館きものショー/着物活用ビジネス現場など 3.　着物の管理・保存に関する知識・技術の習得 【講義】和裁・柄合わせとは/和紙文化と防湿・防虫、収納・虫干、畳み方/着用後メンテナンス 【演習】運針/採寸/見積・裁ち切り・へら付け/浴衣製作/かけ衿の付け方/修理技法 【視察】洗い張り/染み抜き修復工房	・このコースで習得したことを日系団体や日系コミュニティの活性化に活かす意欲を持つ方 ・着付け及び裁縫の経験のある方　※限られた実習時間内で浴衣の縫製を十分に習得する為に、基本的な手縫い技術を身につけていることが必要です。研修申請書に、手縫い経験（着物以外でも可）について必ず記述してください。 ・経験年数3年以上（「着物」に関わった経験） 学歴：　不問 経験年数：必要資格に記載 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：原則、日本語で実施。参加者の日本語レベルに応じて、スペイン語またはポルトガル語の通訳を備上予定。	提案団体：公益財団法人海外日系人協会 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site: https://www.jadesas.or.jp/
C15	日本文化活動コーディネーター育成（応用）	6	下	11月5日	12月15日	【１】研修員（日系団体幹部・役員または日系団体が主催するイベントの企画運営において責任ある立場を有する者）が、日本文化・歴史に関する知識を深め、継承および普及のための日本文化活動を企画・運営するための知識および技術を習得する。 【２】1.研修員（日系団体幹部・役員または日系団体のイベント企画運営において責任ある立場を有する者。以下、同じ）に、日本伝統文化に関する知識が深められ、文化指導の実践方法が習得される。 2.研修員に、様々な日本文化活動事業に関する（資金調達の方法を含む）企画実施方法が習得される。 3.研修員が、日本文化活動を、ビジネス的手法を用いた普及、実践方法が習得され、持続可能な団体運営計画を作成する。 【３】１．講義；日本伝統文化、ポップカルチャー論、各国日系団体事情、イベント企画手法、日本文化紹介手法、ソーシャルビジネス論、BMCを活用した事業分析、新規事業計画作成等 ２．実習・体験；問題解決手法、ファシリテーション手法、広報活動手法（ファンドレイジング）、日本文化体験等 ３．見学；日本の歴史・文化関連施設、文化系・教育系NPOの活動、カルチャーセンター、日本文化ビジネス施設（体験、販売）等 ４．発表；研修最終日	日系日本語学校または日系団体のイベント企画運営実務者または日系団体幹部・役員など 学歴：　不問 経験年数：3 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：原則、日本語で実施。スペイン語又はポルトガル語の通訳を備上予定。	提案団体：公益財団法人海外日系人協会 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site: https://www.jadesas.or.jp/
C16	環境教育指導者養成研修	12	下	1月8日	1月30日	【１】研修員が環境教育指導者（インタープリター）として、必要な基礎技術と知識を取得する。 【２】・環境教育の概要を理解する。 ・インタープリテーション（定義、種類、原則、資質、素材の理解、対象の理解、コミュニケーション、　プログラムデザイン等）の基礎知識を理解する。 ・キープ協会の実践を参考に、自国で学校等の現場で環境教育プログラムを行うことができる。” 【３】1.講義：環境教育概論、インタープリテーション概論、展示・教材、プログラムデザイン、体験学習法、エコツーリズム概論 2.実習：体験：環境教育プログラム（ガイド型・クラフト型・ワークショップ型）、プログラムの相互実施と練り直し、研修成果のまとめ 3.見学：キープ協会各施設、田貫湖ふれあい自然塾、清里聖ヨハネ保育園、山梨県立科学館 4.発表：研修成果のまとめ	環境系・教育系いずれかの大学またはそれに準ずる学校の卒業者が望ましい。 学歴：　高校卒業程度 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：本コースはスペイン語の研修監理員（通訳）配置予定	提案団体：公益財団法人 キープ協会 担当者名：鳥屋尾　健 E-mail：t.toyao@keep.or.jp Site: https://www.keep.or.jp/

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数上限	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
C17	次世代の農業を担い革新を起こす人づくり（スマート農業、フードバリューチェーン、「道の駅」等を活用した地域ブランディング振興策）	10	下	10月1日	11月6日	【１】研修員が、自身の農業経営強化や地域農業活性化に向け①スマート農業、②フードバリューチェーン、③「道の駅」等を活用した地域ブランディング振興策について知見を習得する 【２】1.スマート農業、農業のIOT/ICT デジタルテクノロジーを活用した農業生産・事業展開等についての事例等を通じて、スマート農業、農業のIOT/ICTについて先端技術の活用について知見を深め、経営強化のための生産事業(安定品質、安定コスト、安定生産)の重要性を理解する。 2.フードバリューチェーン 農産物の生産から流通、販売まで付加価値を付与して商品価格を変化させているマーケットイン型の生産・加工事業事例や、各種認証制度の取り組みやトレーサビリティー等の取り組み事例を通じて持続的な農業経営について戦略を策定する。 3. 「道の駅」、地域ブランディングを活用した地域振興策 地域活性化のため、農作物直売所、観光拠点、地域公民館等自治体が地域のニーズに合わせて、元々存在したソーシャルキャピタルをつなぐ場としての「道の駅」について、各地の取り組み事例や討論を通じ、自分の地域での取り組みについて方策を検討する。 【３】本プログラムは、さまざまな実践者や現場を訪れ多様な視点を得ることができることが特徴とし、 1. 講義：・スマート農業（IOT/ICTを活用した研究と普及：JIRCAS）；・スマート農業Ⅱ（IOT/ICTを活用した農業導入事例等及び中南米における可能性）；・認証制度、グローバルGAP、トレーサビリティー等の取り組みによる持続的な農業経営 ・若手農業者のネットワーク化による人材育成の事例（群馬県フロントランナー養成塾）；・「道の駅」を活用した地域振興策（各地の取り組み事例等） 2. 実習・調査：・多様な農産物流通（フードバリューチェーン）による持続的な農業経営;・次世代農業リーダー、農業女子との意見交換会;・「道の駅」の多様な活用事例;・ワークショップ（ナレッジマネジメント） 3. 見学：・スマート農業Ⅰ（研究機関：農研機構）；・スマート農業Ⅱ（民間企業：E-kakashi）；・スマート農業Ⅲ（農家：IOT/ICTによるスマート農業を導入した先進農家）；・環境制御型農業;・多様な流通実践例;・農業生産法人（民間農産物流通）；・次世代農業リーダーの活躍とアグリビジネス;・農業協同組合（組織強化、市場流通・販売促進、産地形成、共同出荷）；・「道の駅」の多様な活用事例（農産物直売所、観光拠点、体験教室型、公民館機能） 4. 発表：ジョブレポート発表、アクションプラン発表等	農業や地域振興に関わる人 学歴： 高校卒業程度 経験年数：3 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：株式会社　自然塾寺子屋 担当者名：森 栄梨子 E-mail：eriko.mori@terrakoya.or.jp Site: https://terrakoya.or.jp/
C22	日系継承教育（教師育成Ⅱ）	6	下	12月3日	1月25日	【１】研修員が、継承教育に関する基礎的な知識（言葉、文化、歴史（移住学習を含む））及び指導技術を習得する。 【２】1.研修員に、継承教育・言語（発達）教育の応用理論が理解され、実践方法が習得される。 2.研修員に、継承教育におけることばに関する知識及び指導技術が習得される。 3.研修員に、初級コースのコースデザイン方法が習得される。 4.研修員に、文化的活動の指導計画作成方法及び指導技術が習得される。 【３】1.講義： ①継承教育・言語（発達）教育の応用理論 継承教育と人格形成（移住学習の実践と方法、継承教育と思考の方法、言語発達と日本語教育） ②継承教育とことば ことばの教育（日本語授業の研究（一般/年少）、技能別指導法） ③継承教育と文化 こどもと文化活動（文化活動、日本文化体験、伝統文化と現代文化） 　2.視察；公立校、日本文化施設など 3.演習	・日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師 （継承教育を実践する教師を育成することを目的とした研修であるため） ・原則、日系継承教育（教師育成Ⅰ）コースを受講した者 ※上記コースの受講経験がない者でも経験年数5年以上または教授時間500時間以上の経験を有する者で、本コースからの受講を希望する者は可（中級クラス担当者または担当予定者） ・日本語能力試験N2程度以上の能力を有すること（初級後半の指導法習得を目標とするためそれ以上の日本語力が必要） 学歴： 経験年数：必要資格に記載 年齢：不問 日本語能力：N2 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：公益財団法人海外日系人協会 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site: https://www.jadesas.or.jp/
C26	小規模食品ビジネスの開発（食の安全：調理と管理・製品開発と販売促進・ビジネスモデル開発のためのバックキャスティング）	14	下	10月1日	10月25日	【１】研修員は以下を習得する。 A)食品ビジネスのビジネスモデルを作成できる B)食の安全および関連する問題を理解する C)日本的食材や現地の健康的な野菜や果物（抗酸化作用を有する、ポリフェノールを含む、など）を有効活用した新規食品開発の方法がわかる D)クールジャパンが推進する日本の文化・食品・ブランド力をどう活かして、顧客をグローカルな食品ビジネスに惹きつけるかがわかる E)自己の参加、プログラムの利益と得たものについての自己分析ができる 【２】研修を通して、研修生は新規ビジネスの実践的計画を作成する。 これにより、以下を習得する。 A)　食の安全をいかに達成し、健康に有益な商品をいかにプロモーションするか B)「新たな」現地の味のフュージョン食品・料理の商品開発 C)　新規食品ビジネスのソーシャルメディア等を通したプロモーション 【３】1.講義：成功する食品ビジネス、日本食の伝統、ビジネスプレゼンテーションの方法、ビジネス計画、ビジネス計画のためのバックキャスティングとソーシャルメディアの活用、食品の健康的特性、日本食のフレーバー、会計と小規模ビジネス 2.実習：飲食店オーナーとの討議／研修（特徴あるレストランの経営）、現地の食材での健康的なアイスクリームを作る、うどん作り、フュージョン料理、フィールド探索とその報告、食品関連工場見学、プレゼンテーション予行 3.発表：研修成果発表（香川大学内またはJICA内）、討議価会	資格：食品ビジネス分野の起業家または将来起業を考えている者。 食品関連分野における基礎的知識を有することが望ましく、食品ビジネス及び日本の食とフュージョン食品に興味のある者。 学歴： - 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：英語での資料読解、発表、レポート作成可 備考：	提案団体：香川大学 担当者名：Lutes Peter Gerald E-mail：lutes.peter@kagawa-u.ac.jp Site: http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/globaledu/?page_id=2891

コース一覧表（下半期分）

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数限上	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
C28	地域の食材を活かした農産物加工による商品開発	10	下	1月8日	1月29日	【１】地域の食材を活かした農産物加工による商品開発のための知見、手法を学び、自国で活用するための実践計画を作成する。 【２】1.地域食材を活かした小規模な農産物加工の手法を理解する。 2.地域食材を活かした農産物加工品のマーケティング・商品開発の手法を理解する。 3.農産物加工のための生産者と加工業者の連携方法を理解する。 4.習得した知見、手法を活用した農産物加工による商品開発のための実践計画を作成する。 【３】1.講義・討議：「香川県における農産物加工の現状」「農産物の加工方法と保存方法」「生産者・加工業者の連携」等 2.視察・懇談：独自の取り組みを実践している中小事業者4社を研究（ケース・スタディ） （視点）・食品加工手法 ・マーケティング ・新商品開発 ・生産と加工の連携 3.日本文化理解：「さぬきうどんづくり」体験、日本庭園「栗林公園」散策・抹茶体験 4.演習：「実践計画」作成 5.発表：「実践計画」発表	農産物加工に携わる企業・組織の経営幹部、農園経営者、農産物生産者、農協関係者 学歴： 不問 経験年数：実務経験1年以上 年齢：不問 日本語能力：N4 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：特定非営利活動法人グローカル四国 担当者名：河内　正則 E-mail：kawa-family@mx8.tiki.ne.jp Site:
C30	「和食」ビジネス振興	8	下	11月5日	12月1日	【１】「和食」ビジネスの起業・振興能力を身につけ、起業・振興計画が策定・実行される。 【２】１．和食文化・背景を理解し、和食についての広い知識を習得する。 ２．ビジネス振興のための実践能力を習得する。 ３．「和食」ビジネス起業・振興のためのアクションプランが作成できる。 【３】1. 日本食品の体験・視察（食材・調味料→味噌・醤油等、日本料理→郷土料理・蕎麦料理等） 2. 日本食品関連経営・事業家能力向上に関する講義（農業の六次産業化、日本型経営、顧客満足経営、人財育成・コーチング、経営・マーケティング戦略、産学官連携） 3. 他 日本食品関連の調査・視察（北九州市場調査、食器、食品廃材利用等）	日本食品関連の日経事業課及び起業家、日本食品関連の日系コンサルタント 学歴： 大卒程度 経験年数：3年 年齢：特に指定なし 日本語能力：N3 英語・多言語：通訳配置可能性有 教材：日本語 備考：	提案団体：公益財団法人　北九州国際技術協力協会 担当者名：山根　信 E-mail：yamane@kita.or.jp Site: http://www.kita.or.jp/
C31	日本的モノづくり技術	8	下	1月8日	2月1日	【１】日本的モノづくり技術をベースとした企業の生産性向上のための戦略的計画が策定される。 【２】１．日本的モノづくりの要件を理解する。 ２．日本的な品質管理、生産性管理技術や方策を習得する。 ３．日本的な生産保全、設備保全技術や方策を習得する。 ４．上記を統合し、Q,C,D (Quality, Cost, Delivery)向上のための戦略的計画能力が身につく。 【３】1. 講義：日本的モノづくり（文化、思想、考え方） 2. 講義・実習：日本的な品質管理・生産性管理（不良品をださない現場、現場の活性化、ロスの排除　など）、生産保全・設備保全（保全管理技術・技能、設備診断技術、設備改善による予防保全　など） 3. 見学・事例研究：5S、KAIZEN実践工場、先端技術工場　など 4. 問題解決の進め方(アクションプラン作成)およびプレゼンテーションのやり方	（日系）製造企業、業界団体に所属している製造管理・監督者、普及指導者 学歴： 大卒、専門学校卒 経験年数：3年 年齢：特に指定なし 日本語能力：N3 英語・多言語：通訳配置可能性有 教材：日本語・英語・ポルトガル語 備考：	提案団体：公益財団法人　北九州国際技術協力協会 担当者名：鳥飼　久敏 E-mail：torikai@kita.or.jp Site: http://www.kita.or.jp/
C33	沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化	12 (15名まで可)	下	10月1日	10月31日	【１】沖縄のアイデンティティが強化され、沖縄のソフトパワーを活かした研修員所属日系地域の活性化が実践される。 【２】１．ルーツとしての沖縄について理解が深まり、沖縄県人としてのアイデンティティが強化される。 ２．地域のリーダーとして地域活性化のための企画力、実践能力が高まる。 ３．沖縄県と研修員所属日系地域のウチナーネットワークが強化される。 【３】行政：沖縄県庁表敬、沖縄県の取組（「世界のウチナーンチュ大会」「世界のウチナーンチュの日」「沖縄21世紀ビジョン」等） 歴史・文化：沖縄の歴史、伝統文化（エイサー、空手、工芸 等） 平和：沖縄の心、平和教育、平和祈念資料館、平和の礎 等 リーダーシップ研修：地域活性化（沖縄県北部での事例研修、地域活性化事業案作成 等） 意見交換：県内の若手日系リーダー、市町村の青年会、世界うちなーんちゅビジネスアソシエーション沖縄（WUB）・世界若者ウチナーンチュ連合会（WYUA）との交流 等	沖縄県県人会参加者や日本語学校関係者、地域社会のリーダー等、帰国後も精力的に活動する意欲のある方が望ましい。 学歴： 大卒（相当） 経験年数：不問 年齢： 20歳～60歳 日本語能力：不問 英語・多言語：通訳配置可能性有 備考：他の日系研修との連携あり 本研修と並行して実施される「地域ブランドを活用した6次産業化とスマート農業による日系農業コミュニティ活性化及びネットワーク強化」コースとの帰国後の相乗効果を企図して、一部合同で講義・実習を行う。	提案団体：特定非営利活動法人レキオウィングス 担当者名：串間　武志 E-mail：info@lequiowings.org Site: https://lequiowings.org/
C34	沖縄のツーリズム・ストラテジー	10	下	1月8日	2月2日	【１】自らのターゲット顧客のニーズに対応した観光商品づくりや販売について戦略案がまとまる 【２】① 沖縄の観光の現状が理解される ② マーケティングやブランディングの基本が理解される ③ 自らが携わる観光の課題を把握し、対応策の案がまとまる 【３】1. 講義： 沖縄観光の概要、マーケティングの基礎、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な事例紹介 2. 実習： マーケティングの基礎、那覇市内の観光実態調査、沖縄観光のマーケティング、沖縄観光のブランディング、地域ブランディング、様々な観光プログラム体験 3. 視察： 首里城、美ら海水族館、南部戦跡など 4. 演習： プロジェクト・サイクル・マネジメント（課題の分析から解決手段の提案）、分析結果の発表と討議 発表： 内部および業界関係者	必要資格：観光業に携わっている。 学歴： 不問 経験年数：2 年齢：不問 日本語能力：日常会話程度 以上（英語ができればなおよい） 英語・多言語：通訳配置可能性有 備考：	提案団体：特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ 担当者名：金城　明子 E-mail：Akiko.Kinjo@npo-oec.com Site: https://npo-oec.com/

コース一覧表（下半期分）

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数限度	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
C35	地域ブランドを活用した6次産業化とスマート農業による日系農業コミュニティ活性化及びネットワーク強化	15名まで	下	10月1日	10月31日	【１】地域ブランドを活用した農産物の6次産業化、スマート農業等による研修員所属の日系農業コミュニティの活性化が実践される 【２】 １．　地域ブランドを活用し、農産物に付加価値をつけ販売を行う6次産業化のノウハウが習得される ２．　AIやIoTを活用したスマート農業についての事例を学ぶ ３．　沖縄の企業と中南米の日系農業関係者等の双方の人的ネットワークが強化される ４．　沖縄の企業とのビジネスの可能性等を含む自国の日系農業コニュニティー活性化事業が提案される 【３】沖縄県における地域ブランドを活用した6次産業化及びスマート農業への取り組み＝「挑戦」を明確にし、その「挑戦」に対応する「経験」を共有する。この「経験」を十分に「消化」し、自国での日系農業コミュニティ「アクションプラン」につなげ、更に研修を通じて出会う人々と「ネットワーク」の構築を研修コースの運営方針とする。これを実現するための研修内容は以下のとおり。 （目標） １．地域ブランドを活用し、農産物に付加価値をつけ販売を行う6次産業化のノウハウが習得される 1-1　沖縄県における地域振興とブランディング戦略を学ぶ 1-2　地域資源の発掘から6次産業化のノウハウを習得する ２．AIやIoTを活用したスマート農業についての事例を学ぶ 　2-1　スマート農業で生産の安定化、効率化、収量向上に取り組む事例を知る ３．沖縄の企業と中南米の日系農業関係者等の双方の人的ネットワークが強化される 3-1　沖縄の企業が有する優位性やニーズを把握する 3-2　WUB沖縄をはじめ、研修を通じ出会う多く人々との人的ネットワーク構築について検討する ４．沖縄の企業とのビジネスの可能性等を含む自国の日系農業コニュニティー活性化事業が提案される 4-1　日系農業コミュニティ活性化を目指すプロジェクトの策定方法を習得する 4-2　自国で実施するアクションプランを策定する	日系社会で農業に関する事業に携わっているもの 学歴：　不問 経験年数：不問 年齢：20歳～60歳 日本語能力：不問 英語・多言語：通訳配置可能性有 備考：	提案団体：特定非営利活動法人レキオウィングス 担当者名：串間　武志 E-mail：info@lequiowings.org Site: https://lequiowings.org/
C36	「5S- KAIZENを通じた病院における安全とサービスの質向上」	6	下	11月5日	12月8日	【１】研修員が、研修を通して5S- KAIZENを理解し実践する能力を身に付け、修得した知識を活用することで、病院の安全とサービスの質の向上に貢献する。 【２】1. 研修員が、5S-KAIZENの知識を修得することによって、管理意識が向上する。 2. 研修員が、日本の病院を見学することによって、5S-KAIZENの実践と院内実施体制を理解する。 3. 研修員が、日本における患者満足度の向上に係る取り組みを理解し、自国での応用可能性について具体的な考えを得る。 4. 研修員が、研修で修得した知識、技術、情報に基づき、具体的実践計画を作成する。 【３】1.講義：5S- KAIZENにおけるマネジメント、5Sの概要、院内感染予防からみた5S、院内感染対策、手指衛生、医療機材と5S、5SからKAIZENへ～KAIZENとは、KAIZEN7ステップ、KAIZENツール、KAIZEN業務プロセスの見直し、問題分析と目的分析、パレートチャート、フィッシュボーンチャート、日本の保健医療制度、カイゼン型病院経営、リーダーシップ論、TQMとは、メンターシップ、サポーティブスーパービジョン、モチベーション管理、モチベーショントレーニング、患者安全、医療安全と5S- KAIZEN、危険予知トレーニング（KYT）、プロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）、チームビルディング、PDCAと組織運営、SWOT分析、院内実施体制の確立、モニタリングシステムの構築、チェックリストの活用 2.実習：ジョブレポート作成（ポスター形式）、手指衛生、プロブレムツリーとオブジェクティブツリー、パレートチャート、フィッシュボーンチャート、SWOT分析、チームビルディング、危険予知トレーニング（KYT）、具体的実践計画の策定 3.見学：病院（5S-KAIZEN-TQMの展開、情報管理システム管理、安全管理等） 4.発表：ジョブレポート（ポスター形式）、所属先における5S-KAIZENの事例紹介、具体的実践計画	・医師、看護師、薬剤師等の医療従事者 ・事務管理職（医療施設において管理者経験があるもの）、もしくは、将来管理者として従事する可能性がある もの。 （帰国直後から、所属先で中心となり5S- KAIZENの実施・普及を期待するため） 学歴：　大学卒業程度 経験年数：実務経験3年以上 年齢：応募時点で49歳以下 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：株式会社ティーエーネットワーキング 担当者名：佐藤 結香 E-mail：sato.yuka@ta-n.com Site: http://www.ta-n.com/index.html
L17	早期胃癌の内視鏡診断と治療	1	下	下半期いずれかで 相談可		【１】世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ 【２】・日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習熟できる ・次世代型トレーニングモデルや豚切除胃を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術とコツを学ぶ ・帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ・インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する 【３】1. 講義：最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2. 見学：九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3. 実習：粘膜モデルやブタから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4. 学会参加：日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5. 発表：病院内で研修内容を発表、自国の所属施設と接続しての研修報告	医師（内視鏡経験が1年以上で年齢60歳以下） 経験年数：医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上 学歴：　大卒程度 経験年数：2年 年齢：60歳以下 日本語能力：不問 英語・多言語：技術研修は英語で実施 備考：応募締切は10月来日コースの締切日です。	提案団体：国立大学法人　九州大学 担当者名：森山　智彦 E-mail：tomohiko.moriyama.153@m.kyushu-u.ac.jp Site: http://plaza.umin.ac.jp/imed/en/index.html

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数限度	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
S3	地域包括医療（看護と介護）	3	下	10月1日	11月9日	【１】地方都市における母子栄養改善から予防医療、介護まで統合的な医療体制を学び、自国で活用するためのアクションプラン を作成する。 【２】① 研修員に地域社会における医療体制の全体像が理解される。 ② 妊娠期から産褥期の母子栄養および幼児期における食育への知見が習得される。 ③ 成年および老年の健康レベルに応じた適切な医療ケアの技術・知見が習得される。 ④ 研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。 【３】１．講義：①日本の地方都市における看護と介護の取り組み ②母子栄養改善の手法、食育への取り組み ③成人病予防の取り組みと成果 ④健康レベルに応じた適切な医療ケアの視点 ２．視察：他団体の施設、活動（公的機関、民間） ３．演習：研修員の職務に直結している問題を分析し、日本の手法を活用した上でアクションプランを作成する ４．発表：内部および研修関係団体・機関	医療関係機関に属する者 学歴： 高校卒業程度 経験年数：3 年齢：不問 日本語能力：Ｎ４程度 英語・多言語：医療専門用語の使用が想定されるため、必要に応じ通訳の配置を検討予定 備考：本研修実施の意義／現地日系社会への裨益効果: 本研修は、日本の地方都市における地域包括医療への取り組みについて、講義、実習、視察を通して、地域の統合的医療を目指す。地域医療に係る幅広い知見および技術を取得し、各国での実践により地方医療の基盤を構築することで、乳幼児から高齢者まで、健康状態に応じた適切なケアへの対応が可能となり、将来的な早産児の死亡率低下や成年・老年の予防医療の促進、末期患者への緩和ケア等幅広い医療ケアに寄与できると考える。 当大学は草の根技術協力にて、モンゴルを対象とした介護研修を実施した経験と、関連機関である北見赤十字病院にて実施したブラジルを対象とした末期患者への緩和ケアにおける医療教育を担当した経験を有しており、また地域医療の中心としてオホーツク地域の医療機関、介護施設、官民学が連携した研修の実施が可能であることから、地域包括医療に係る技術・知見を習得した人材を育成することが可能であり、研修員帰国後は即戦力として日系社会に貢献が可能である。	提案団体：学校法人　日本赤十字学園　日本赤十字北海道看護大学 担当者名：辻　裕昭 E-mail：tsuji@rchokkaido-cn.ac.jp Site: http://www.rchokkaido-cn.ac.jp/
S5	「日系アイデンティティ涵養・日系史教育教材作成」演習（その１）	2	下	10月1日	12月11日	【１】日本の歴史や文化、社会的背景、現代日本の実情などに関する理解を深め、質の高い日系文化継承教育教材を制作する。 【２】・絵画・漫画・動画など，日本（特に金沢を含む北陸地方）だからこそ入手可能な視覚教材資料の探索と収集 ・教材制作に関わる各種スキル（制作，編集，管理・更新方法など）の修得 ・研修員の指導対象となる日系子弟を想定し，学齢児童教育や語学教育現場視察を通じた教育技能のスキルアップ ・日本文化，日本史，現代日本の社会実情などについて，体験学習を交えた深い理解 ・研究成果のプレゼンテーション，あるいは研究レポートの日・英・西又はポ語での記述 ・ネットの活用により，修得した技術や成果を研修員の母国の日系社会で広く効果的に還元 【３】1.講義：日本文化概論，日本史，日本文化史，日本社会概論，日本伝統芸能概論 2.実習：日本文化・社会プログラム，日本伝統芸能演習，等 3.見学：人間社会学域学校教育学類附属学校，放送大学，石川県を始めとした北陸各地の文化施設訪問（美術館，博物館，等），（必要に応じて）研修員の研修内容に関わる地域への研修旅行 4.学会・セミナー・外部研修：（必要に応じて）研修員の研修内容に関わるものへの参加を検討 最終発表：学内で研修最終日に実施予定（閉講式も兼ねる）	日系文化継承教育に携わるか、今後だず触る予定がある者 学歴： 大学卒業程度 経験年数：3 年齢：N/A 日本語能力：N/A 英語・多言語：N/A 備考：研究テーマについて事前に太田先生に相談すること。	提案団体：国立大学法人金沢大学 担当者名：太田　亨 E-mail：akirao@staff.kanazawa-u.ac.jp Site: http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/eg/sie/
S6	医療（麻酔科）	2	下	10月1日	11月2日	【１】同研修で得た知識や経験を当該地域一人一人の患者の全身状態、社会的特性に配慮しそれぞれに最適な医療を提供する計画と実行する能力の修得 【２】①日本の周術期管理の全体像を理解する ②日本の周術期管理の技術・知見が習得する ③ ①、②を基に、自国で応用可能な技術・手法等を整理する ④帰国後の具体的な活動計画を作成する 【３】１．講義； ①日本における周術期管理の現状 ②周術期管理の実際 ③周術期管理（麻酔、集中治療、緩和ケア）の知識、手法 ２．実習； 心肺蘇生教育コースや呼吸療法コースに参加させる。 ３．演習； 直面している問題を分析し日本の手法の適応を検討し、アクションプランを作成する ４．学会・セミナー；計画中 ５．発表；内部	必要資格；麻酔科専門医師であること （医師免許CRM取得済みであること） ５０歳までの、将来性のある医師 学歴： 大卒 経験年数：６年以上 年齢：50歳まで 日本語能力：N3 （絶対要件ではない） 英語・多言語：要　（研修に耐えうる英語力は必須） 備考：研修において臨床実習は行わない。 ※選考書類以外の提出物 研修際し、来日前に抗体値がわかる書類の提出を必要とし、同院が定める基準に満たない場合、ワクチン接種の上、接種証明書の提出を必要とする。(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎)	提案団体：金沢大学 担当者名：谷口　巧 E-mail：hpsomu@adm.kanazawa-u.ac.jp Site:　https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/ https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/research/training/ https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/research/training/doc/intern/08_unyou2021.pdf

コース一覧表（下半期分）

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数上限	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
S7	高齢者介護サービスにおける人材育成システム	2	下	12月3日	3月2日	【１】研修員が当該地域で適応可能な、要介護高齢者に対する介護サービスの技術及び知識を習得し、同様の技術、知識を現地に広めることを目的とする。 【２】①研修員に、日本の高齢者福祉制度の全体像が理解される ②研修員に、日本の高齢者介護手法の技術・知識が習得される。 ③研修員に、日本における介護の基本的資格である介護職員初任者研修のカリキュラム・技術・知識が習得される。 ④研修員が前３項を元に、自国で応用可能な介護技術・介護人材育成のシステムを構築する方法を習得する。 ⑤研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。 【３】１講義（介護職員初任者研修講座を受講） ①日本の高齢者介護福祉制度の概要 ②高齢者の日常生活自立の重要性とケアの視点 ③コミュニケーション技術 ④老化・認知症・障害の理解 ⑤生活支援技術演習 ２実習・OJT：認知症利用者への接し方;生活支援方法の実習（食事、入浴、排せつ） ３見学：他団体の施設、活動（公的機関、民間） ４演習：直面している問題を分析し、日本の手法の適応を検討し、帰国後の活動計画の作成 ５その他：介護職員初任者研修の資格試験実施 ６学会等：介護事業者の団体である茨城県福祉介護事業協同組合の研修会に参加 ７発表：内部及び茨城県福祉介護事業協同組合	実際に家庭及び地域社会で、介護を必要とする高齢者と接した経験 日系社会でこれから高齢者介護に携わろうとする意志があること 本研修を受講するにあたり、実体験と照らし合わせて理解する必要があるため 学歴： 不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N3 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：株式会社つくばエデュース 担当者名：飯岡　達郎 E-mail：iioka1225@gmail.com Site: http://i-relay.jp/
S8	日本食の介護食についての知識並びに技能習得	2	下	12月3日	3月2日	【１】研修員が当該地域で適応可能な、日本食に関する知識　（下準備、調理方法等）、介護食に関する知識（食材選び、調理方法等）を習得することを目的とする。 【２】①研修員に、日本食の知識、味、作り方の基本が習得される ②研修員に、日本食の介護食の知識、味、作り方が習得される。 ③研修員が前２項を元に、自国で応用可能な日本食・日本食の介護食を作る方法を習得する。 ④研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。 【３】１講義：（介護職員初任者研修講座テキストを使用し指導する） ①　食事に関連したこころとからだの仕組みと自立に向けた介護 ②　家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ２実習・OJT：日本食・介護職の作り方の実習 ３見学：グループ法人の施設、食事形態 ４演習：帰国後の活動計画の作成 ５その他：研修員による食事会の実施 ６学会等：なし ７発表：内部及び茨城県福祉介護事業協同組合	実際に家庭及び地域社会で、介護を必要とする高齢者と接した経験 日系社会でこれから高齢者介護に携わろうとする意志があること 本研修を受講するにあたり、実体験と照らし合わせて理解する必要があるため 学歴： 不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N3 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：株式会社つくばエデュース 担当者名：飯岡　達郎 E-mail：iioka1225@gmail.com Site: http://i-relay.jp/
S9	環境教育指導者養成研修	2	下	10月1日	11月29日	【１】研修員が環境教育指導者（インタープリター）として、必要な基礎技術と知識を取得する。 【２】・環境教育の概要を理解する。 ・インタープリテーション（定義、種類、原則、資質、素材の理解、対象の理解、コミュニケーション、　プログラムデザイン等）の基礎知識を理解する。 ・キープ協会の実践を参考に、自国で学校等の現場で環境教育プログラムを行うことができる。 【３】1.講義・実習：　環境教育概論、インタープリテーション概論、日本の環境教育、八ヶ岳の自然、森林療法プログラム、プログラム実施と相互評価、体験学習法、プログラムデザイン、スライドプログラム、月例観察会等 2.実習：プログラムの準備・実施・評価（幼児・小学校・中学校・大人一般・シニア・親子） ※実習が研修の8割を占めます。日々の実践を体験しながら、その体験からの気づきから学びを深め 　理論と実践がつながるようにしていきます。 3.見学：環境教育施設（ビジターセンター） 4.発表：研修最終日	環境系・教育系いずれかの大学またはそれに準ずる学校の卒業者が望ましい。 学歴： 高校卒業程度 経験年数：必要資格に記載 年齢：不問 日本語能力：N3 英語・多言語：不問 備考：・研修実施場所は都市部ではないので、買い物等は最寄のスーパーが車で３０分の立地です。 ・宿舎は、キープ協会宿舎利用予定。一部日程につき、部屋の移動をお願いする場合があります。	提案団体：公益財団法人キープ協会 担当者名：鳥屋尾　健 E-mail：t.toyao@keep.or.jp Site: https://www.keep.or.jp/

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数上限	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
S11	共感理解教育と日本文化活動	3	下	12月3日	2月15日	【１】研修員が、共感理解教育の理論、及びものごとを論理的に構築し、実験や観察に基づいて実証していく力を習得する。 【２】①共感理解教育の基礎理論、教育課程及び指導技術の習得。②教育実習と教職実践演習を通じて共感理解教育技術の習得。③共感理解教育研修を参考にして自国文化の発展に応用可能なアイデア・企画力及び技術の習得。④研修員が帰国後の具体的な活動計画の立案・作成する技術の習得。⑤日本文化活動を通じた日系人としてのアイデンティの向上。” 【３】研修計画（内容）： 1.講義および実習： 関東圏の星槎グループの各教育施設および事業所において実施。 学校での授業参加を通じての教育実習的要素と、学びを深めるための講義、およびグループの多様な事業の体験的要素をバランスよく組み合わせる。星槎グループが長年掲げてきた、お互いを認め合い、学びを深めていく「共感理解教育」をキーワードに、各校舎の特色ある教育プログラムを知るとともに、参加し、実践していく。 【研修実施を予定しているグループ校舎、事業部】 ・星槎国際高等学校　（広域通信制高校、日本全国に展開） ・星槎高等学校（全日制、生徒の個性に合わせた指導が特色） ・青葉台幼稚園（幼児教育） ・世界こども財団（国際支援、国際交流、災害支援を実施） ・FM湘南マジックウエイブ（全国で唯一の学校が運営するコミュニティラジオ） 2.日本文化体験：①星槎グループの各校舎が取り組んでいる特色ある日本文化体験プログラムで学ぶ。（例）和太鼓、習字、農業体験、日本の唱歌、伝統的スポーツ;②別途、神奈川県内を中心に歴史的名所を訪れ、また、体験プログラムを通して日本文化を学ぶ。（例）地引網、みかん狩り、小田原城、横浜中華街、横浜外国人墓地資料館、鎌倉歴史散策など。 3.研修員のルーツを学ぶプログラム：全国に展開する星槎グループのネットワークを生かし、応募者のバックグラウンドに応じてルーツを知る研修を計画する。（例）沖縄にルーツを持つ研修員に対し、星槎国際高等学校沖縄学習センターと連携して現地訪問、学校での実習、沖縄の歴史や首里城の再建プロジェクト等について学ぶ。 4.成果発表：JICAにおける成果発表を行うほか、星槎グループの各実習先において、自ら企画した授業を実施することを目標とする（時期や回数は進捗に応じて調整するが、少なくとも後半に訪問する学校においては実施する）。星槎グループとしても研修生の活動をFMラジオやニュースレター、またwebなど、グループの持つ各種媒体で発信していく。	教育および青少年育成に携わる方、または勉強している方 学歴：　不問 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：N3 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：公益財団法人 世界こども財団 担当者名：石井 洋祐 E-mail：fgc@fgc.or.jp Site: https://kokusaigakuen.ac.jp http://www.fgc.or.jp
S12	特別支援教育	3	下	下半期いずれかで相談可	12月22日	【１】　研修員が特別支援教育についての知識と実践力を習得し、当該国の教育現場に還元できるよう講義及び実習で研修する。 【２】1.日本の特別支援教育の全般を理解し、自国の勤務先での教育現場で応用できる技術の習得。 2.日本の特別支援教育の実践現場を体験することにより自国の実践活動での教育手法の習得。 3.自国での特別支援教育の在り方を比較検討する技能の習得。 【３】1.講義：①日本の特別支援教育の概要;②関連科目;③特別支援教育の指導法;④個別の指導計画（Individualized Education Program(IEP)）に関する研修 2.実習：学校施設での授業見学、実習、現職教員からの実習指導 3.見学：本法人内の学校施設、関連機関の教育施設も見学 4.演習：クラス単位での実習と個別指導の実践をする 5.発表：最終段階では、教育実習同様に研究授業を行う	継承日本語教育実践教師、日系人学校教諭、大学教員・研究員、または、現在、特別支援教育に携わる者（帰国直後からの研修成果活用を期待するため） 学歴：　大学卒業程度 経験年数：3 年齢：不問 日本語能力：N3 英語・多言語：不問ですが、できればより望ましい 備考：・応募締切は10月来日コースの締切日です。	提案団体：学校法人　国際学園 担当者名：太田　啓孝 E-mail：y_ohta@seisa.ac.jp Site: http://www.seisa.ac.jp
S13	日系社会の幼児教育	3	下	下半期いずれかで相談可	12月22日	【１】　研修員が、幼児教育の理論、及びものごとを論理的に構築し、実験や観察に基づいて実証していく力を習得する。 【２】①日本の幼児教育の基礎理論、教育課程及び指導技術の習得。 ②教育実習と教職実践演習を通じて幼児教育専門技術の習得。 ③日本の幼児教育を参考にし、自国での指導に応用可能なアイデア・企画力及び技術の習得。 ④研修員が帰国後の具体的な活動計画の立案・作成する技術の習得。 【３】１．講義；幼児教育系科目 ２．実習：音楽実技、体育実技、美術実技、レクリエーション実技等 ３．演 習；横浜市青葉区幼稚園（幼保連携型認定こども園）にて教育実習 ４．見学：社会福祉法人「星槎」が運営する保育園見学 ５．学会・セミナー；計画中 ６．発表：学内、研修最終日	必要資格：継承日本語教育実践教師または日系幼稚園教諭 帰国直後からの研修成果活用を期待するため。 学歴：　大学卒業程度 経験年数：2年以上。基礎知識、知見が必要なため。 年齢：不問 日本語能力：N3以上。日本語の講義等を受講すること、日本語で日誌をある程度書けること 英語・多言語：不問ですが、できればより望ましい 備考：・応募締切は10月来日コースの締切日です。	提案団体：学校法人　国際学園 担当者名：太田　啓孝 E-mail：y_ohta@seisa.ac.jp Site: http://www.seisa.ac.jp
S15	日系資料館運営改善に向けた資料の有効活用	4	下	1月8日	2月2日	【１】　研修員に、資料館運営のための知識及び資料の収集・保存、展示技術などが習得され、研修員の属する館の資料管理、資料保存が促進され、展示へ活用されることにより、魅力ある資料館活動が期待される。また、資料館業務において情報交流し、将来的に海外移住資料館との企画展示交流や共同展示を目指すことが促進される。 【２】(1) 研修員に、講義や視察をとおして、資料館活動、運営に関する知識が習得される。 (2) 研修員に、資料の収集・保存、展示技術等に関する知識及び技術が習得される。 (3) 研修員に、海外移住資料館を通じた各国移住資料所蔵施設等とのネットワークが構築される。 【３】1. 講義 資料館の運営及び資料収集・整理/IT技術を用いた資料館管理と展示/教材開発の経緯と活用事例等 2. 実習 資料の展示と資料の梱包と輸送方法/資料撮影の基礎/企画展示原稿作成等 3. 見学 アメリカ村カナダミュージアム、和歌山市民図書館、和歌山大学	日系資料館もしくは日系団体の活動に1年以上関わっている者 学歴：　高校卒業程度 経験年数：1 年齢：不問 日本語能力：不問 英語・多言語：不問 備考：日本語能力についてはN3以上が望ましいが、参加する研修員の日本語レベルに応じて通訳を傭上する予定	提案団体：公益財団法人海外日系人協会 担当者名：中井扶美子 E-mail：kenshu@jadesas.or.jp Site: https://www.jadesas.or.jp/

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数限上	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
S17	日系アイデンティティの涵養を通じた日系団体の活性化	3	下	1月8日	1月24日	【１】自身のルーツとなる日系アイデンティティが強化され、自国の日系団体の中核的存在として同団体の活動を活発化させるための企画・実践力を身につける。 【２】1.自身のルーツとなる土地への理解を深め、日系アイデンティティが強化される。2.日系団体等の活性化のための活動に関する企画力・実践力が強化される。3.研修を通して交流を深めた日本人との新たな日系ネットワークを構築する。 【３】1.講義、実習（伝統芸能・文化の視察等、地域・団体の活性化等に関する講義、地元青年等との意見交換・交流等） 2.所属する日系団体の活性化のための活動計画の作成、3.関係者への研修結果の報告。	・日系団体の青年部等に所属している者、または今後所属する意思がある者で、当該団体からの推薦を得られること（研修効果に鑑み、島根県人会等、島根県にルーツが有る者が望ましい） 学歴： 不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N4程度 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：島根県 担当者名：足立　晴香 E-mail：bunka-kokusai@pref.shiamene.lg.jp Site: http://www.pref.shimane.lg.jp/
S18	理学療法による機能回復訓練	1	下	10月1日	11月17日	【１】障害者などに対して、身体機能の改善や日常生活活動能力の向上などを目的としたリハビリ訓練の手法を習得する。 【２】理学療法の様々なアプローチからのリハビリ訓練に関する手法。 【３】障害者（主に成人）を対象とした理学療法による機能回復訓練の現場での実習を通じて、訓練の流れやシステム、疾患別アプローチについて学ぶ。	理学療法士の資格・経験のある者（自国での資格で可）。 学歴： 不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N2以上 英語・多言語： 備考：	提案団体：公益財団法人 ひろしま国際センター 担当者名：迫本　啓吾 E-mail：hicc12@hiroshima-ic.or.jp Site: http://hiroshima-ic.or.jp/
S20	寒冷条件下での自然環境保全を目指したバイオ複合材料の調査研究	2	下	下半期いずれかで相談可	1月26日	【１】全世界で自然環境保全を目指したバイオ複合材料が必要とされていることを理解し、調査研究を通じて、専門知識を得る。 さらに、徳島大学での先進技術を知ることで、日系社会の発展と移住先国の国造りに貢献できる新しい取り組みを検討する。 【２】1.石油由来のプラスチックごみの環境に及ぼす影響について理解すること 2.石油由来のプラスチックに代わるバイオ材料についての知識を得ること 3.最新のバイオ材料の研究動向を知ること 5.自然環境保全を目指したバイオ複合材料の試作研究を行い、専門知識を得ること 【３】1.調査：教員から個別のレクチャー、学術論文読解、最新の研究動向を文献ベースで調査し、問題点の抽出ならび解決策の一つであるバイオ材料の現状分析調査を行う。大学院進学が可能となるように研究指導を行う。 2.試験計画策定：問題点を解決するためのバイオ複合材料の試作について、試作方法、分析方法、評価法について、試験計画を策定する。 3.試作試験：バイオ複合材料の試作を行う。 4.分析：適切な分析評価方法を調査し、分析を行う。 6.解析・まとめ：分析結果から目的としたバイオ複合材料の試作の可否ならびにさらに性能向上に向けた問題点をまとめる。	理系大学在学中または卒業 学歴： 大学卒業程度 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：ポルトガル語で会話できる教員が在籍しているため、ポルトガル語を話せる場合は日本語能力不問。 スペイン語を話せる場合は、日本語能力試験N4以上（ただし、研修期間中の徳島大学が開催する日本語教室を必ず受講すること）。 英語・多言語：不問 備考：・応募締切は10月来日コースの締切日です。	提案団体：徳島大学 担当者名：長谷崎　和洋 E-mail：hasezaki@tokushima-u.ac.jp Site: http://www.tokushima-u.ac.jp/
S22	地域包括ケアシステムと在宅医療	2	下	11月5日	12月1日	【１】患者中心の視点で「生活の中の医療」「病気ではなく人を診る」を心がけ、患者のニーズに応じた医療システム、在宅患者やご家族がご自宅で過ごすために必要な知識、技術、支援方法を習得する。加えて、地域で最期まで暮らし続けることを支える様々な仕組みやシステムについても施設やサービスの見学あるいは実体験を通して学ぶ。併せて在宅医療を通して、最期まで安心して暮らし続けることの出来る地域創生法を実例から理解する。 【２】1. 日本の高齢者福祉制度の全体像が理解される。2. 日本の在宅医療の技術･知識が習得される。 3. 前2項を元に、自国で応用可能な介護技術･知識を整理する。4. 高齢者施設の運営、管理について理解する。5. 高齢者用住宅の利便性について理解する。6. 高齢者に残されている力を使うケアについて理解し、応用できることを計画する。7. 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるための包括的な地域医療 (訪問医療･看護･リハビリ･介護等の包括的な展開) を理解する。8. へき地の診療所の取組みや地域との関わり方を理解する。9. 帰国後の具体的な活動計画を作成する。 【３】【内容】 講義：1)高齢社会を支える在宅医療; 2)高齢者ケア;　3)在宅緩和ケア; 4)地域包括ケアシステム; 実習：訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、鍼灸マッサージ、訪問介護などへの同行。 見学：1)在宅療養支援病床＆ホスピス・緩和ケア病床; 2)高齢者施設、高齢者賃貸住宅; 3)訪問看護・介護ステーション; 4)　へき地の診療所の取組みと地域医療（俵津診療所） 演習：直面している問題を分析、日本の手法の適応を検討、帰国後の活動計画の作成 発表：成果報告会 【カリキュラム】 以下のカリキュラムにおいて、研修内容の充分な理解と習得が行われることを目指します。 1. 在宅医療全般についての講義と在宅での臨床研修 2. 在宅ターミナルケアについての講義と当該患者様宅での臨床研修 3. 在宅での看護、リハビリ、介護、鍼灸マッサージ等の臨床研修 4. 地域医療とフィールドワーク（俵津診療所） 5. 医療連携、介護連携による地域包括ケアの講義と見学研修 6. 高齢者施設の見学研修	日系社会で医療･保健･福祉分野に従事する者 学歴： 不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：N3 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：医療法人ゆうの森 担当者名：木原　信吾 E-mail：kihara@tampopo-clinic.com Site: http://www.tampopo-clinic.com/

2023年度日系社会研修員受入事業

No.	研修科目 和文	受入人数限上	上下	来日日	終了日	①目標 / ②成果 / ③計画（内容）	資格要件	提案団体・担当者名
S23	よさこい踊り子チームのマネジメントを通じた日系社会の活性化	1	下	1月8日	2月2日	【１】❶現在所属するよさこい鳴子踊り子チームの総合的なマネジメント力のレベルアップを図る ❷研修成果物であるよさこい鳴子踊りの衣装、音楽、鳴子、振付を活用したアクションプランを創造する ❸日本のよさこい祭り関係者との連携を通じて、現地チームの持続可能な運営サポート体制を構築する 【２】❶現在所属するよさこい鳴子踊り子チームの総合的なマネジメント力のレベルアップを図る ❷研修成果物であるよさこい鳴子踊りの衣装、音楽、鳴子、振付を活用したアクションプランを創造する ❸日本のよさこい祭り関係者との連携を通じて、現地チームの持続可能な運営サポート体制を構築する 【３】1.講義：「よさこい祭りとよさこい鳴子　踊りの歴史と変遷」 2.視察：鳴子制作現場、よさこい衣装制作現場、よさこい音楽セレクト現場、よさこい振付セレクト現場、高知よさこい情報交流館、高知城、高知城歴史博物館、龍馬の生まれた町記念館 3.発表：日系社会の現状（カントリーレポート）、アクションプラン（研修成果報告） 4.その他：ホームビジット、地元青少年国際交流団体	日系社会でのよさこい鳴子踊り子チームマネジメントを期待できる人材 学歴：　不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：研修可能な日本語力を有する者 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：高知希望工程基金会 担当者名：山中　茂 E-mail：chinatu6732@ybb.ne.jp Site: N/A
S26	早期胃癌の内視鏡診断と治療	3	下	下半期いずれかで相談可		【１】世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ 【２】・日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習熟できる ・次世代型トレーニングモデルや豚切除胃を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術とコツを学ぶ ・帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ・インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する 【３】1. 講義：最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2. 見学：九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3. 実習：粘膜モデルやブタから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4. 学会参加：日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5. 発表：病院内で研修内容を発表	医師（内視鏡経験が1年以上で年齢60歳以下） 経験年数：医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上 学歴：　大卒程度 経験年数：2年 年齢：60歳以下 日本語能力：不問 英語・多言語：技術研修は英語で実施 備考：応募締切は10月来日コースの締切日です。	提案団体：国立大学法人　九州大学 担当者名：森山　智彦 E-mail：tomohiko.moriyama.153@m.kyushu-u.ac.jp Site: http://plaza.umin.ac.jp/imed/en/index.html
S27	グリーンツーリズム	3	下	10月1日	11月1日	【１】グリーンツーリズムについての全般的な知識を得て、どのようなものであるか理解し、多様な形態や手法・技術を習得する 【２】1.グリーンツーリズムの意義について理解する 2.グリーンツーリズムの具体的な事例、経営ノウハウについての知見を得る 3.日本におけるグリーンツーリズムの事例を参考にして研修員が自国で実施可能なアイデアを得る 4.研修員が帰国後の具体的な実践計画を作成する 【３】1. 講義：グリーンツーリズムの意義、日本（鹿児島）におけるグリーンツーリズムの現状と課題、農村女性の活用、グリーンツーリズム経営とリスクマネジメント、環境保全 2. 実習：グリーンツーリズムの事例（農業体験、農産物加工体験、自然体験、農家民泊） 3. 視察：グリーンツーリズム関連施設、観光施設 4. 意見交換：グリーンツーリズム実践者、関係者との意見交換 5. 発表：研修成果発表	グリーンズツーリズム実践を目指している人で、農・林・漁業関連の仕事および旅行業に携わっているか、または日系社会で婦人会内などの地域活動をしている人 学歴：　高卒程度 経験年数：3年 年齢：特に指定なし 日本語能力：N3 英語・多言語：英語でのコミュニケーション可 備考：	提案団体：鹿児島国際交流促進センター 担当者名：渡邊　洋子 E-mail：kapic114@po3.synapse.ne.jp Site: http://kapic.jp/
S29	花卉園芸の栽培技術及びフラワーアレンジメント技術研修	3	下	10月1日	12月22日	【１】研修員が自国での花卉園芸の発展に貢献できる人材となるよう花卉園芸に関する基礎的な栽培技術等を習得し、農業経営の発展に寄与する事を習得する。ビカクシダ等胞子植物の栽培方法を習得する。フラワーアレンジや花束等技術を習得する。 【２】１．植物の育種方法を習得する。 さし木、取り木、株分け、胞子栽培等の技術力を向上する ２．経営管理能力を習得する。 販売方法等を考察する。フラワーアレンジ、生け花等を体験。 ３．農業全般を体得し、帰国後、実践的な事業計画を作成する。 【３】１．講義・実習・視察 ・（講義）植物による育苗・育種の違い ・（実習）肥培管理の技術の習得 ・（実習）栽培管理の技術の習得 ・（実習）胞子栽培の技術の習得 ・（実習）フラワーアレンジメント、生け花の技術習得 ・（視察）農産物の加工施設等の視察 ・（視察）植物園、観光農園等の視察 ・（視察）直売所、道の駅等の視察 ・（その他）農業大学校、先進農家等の情報交換	農業に関心がある者 学歴：　不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語能力：日常会話で可能な程度（N5） 英語・多言語：不問 備考：	提案団体：農業生産法人ANDES farm合同会社 担当者名：伊藝　裕美子 E-mail：andesnouen@gmail.com Site: なし